

宮城いきいき便り

いきいきSUNクラブ、宮城いきいき学園の活動を
紹介するページです

宮城いきいき学園 2年ぶり合同入学式

県内に仙南、大崎石の合同入学式となった。栗原の5校を設置し、高年齢の生きがいと健康づくりを支援する宮城いきいき学園が4月、仙台市の県庁講堂で本年度の合同入学式を開いた。

県内には仙南、大崎石の合同入学式となった。栗原の5校を設置し、高年齢の生きがいと健康づくりを支援する宮城いきいき学園が4月、仙台市の県庁講堂で本年度の合同入学式を開いた。

来賓を代表し、村井嘉浩知事は「学園生には、いろいろなことを勉強してもらい、いろいろな形で地域貢献してほしい」と祝辞を述べた。

新入生代表で、登米・栗原校の涌井俊衣さん(登米市)は「これから学園生活が始まる。このうち、仙南校は仙台大(柴田町)に、気仙沼・本吉校は三陸新報社(気仙沼市)に学習会場を変更して再スタートを切った。

前年度は東日本大震災の影響で合同入学式が中止に。学習会場が津波で流失し、1年間休校となった気仙沼・本吉校を除く4校はそれぞれ入学式を開いたことから、本年度は2年ぶり



5校の入学生が県庁講堂に一堂にそろった

園生活にまい進する覚悟を新たにしている」とあいさつした。

この後、TBCアナウンサー学院の森雅一郎学院長が「楽しもう、伝えよう、もうひとつの人生」と題して記念講演した。森学院長は「元

率先し「お茶っこ会」開く

秋山地区社会福祉協議会副会長



いつも元気でこやかな阿部さん

◆阿部みつるさん(76)
栗原市築館上宮野

栗原市築館の秋山地区社会福祉協議会の副会長として活躍する。40代から歳末助け合いの募金集めといったボランティア活動に携わった。45歳のころから築館町(当時)の保健推進員を担当し、2005年の栗原市誕生後も築館地区の保健推進員の会長を務めた。

2000年に保健師だった知人からの勧めで、長野県のある地区で行われていたのを参考に、秋山地区でも「寝たきり老人をなくし、ピンピンとしてコロッといく、いわゆるPPPK運動としての「お茶っこ会」を他地区に先駆けて開催した。

「最初は、ほかの人が行くので自分も来たという人も、自分から積極的に参加するようになった時はうれしかった。だんだんと参加者が増え、地区の民生委員や若い人たちにも手伝ってもらうようになった」と振り返り、「年老いてくると1カ月会わないだけで、その人の変わり方が見えてくる」と話す。

お茶っこ会では、手作りした弁当や芋団子、すいとんなどを振る舞っている。多いときには男女20人ほどが集まるという。秋山地区は全36戸。65歳以上の高齢者が全戸にいる。かつては「短命の地区」と言われていたが、今では会で冗談を言ったり笑い合い、それが長生きにもつながっている。地区の最高齢88歳の人も参加する。

「それが人生の宝物だ」と思っている。自分が苦しいときには訪ねて来てくれる。そのときは本当につれしくなる」

お茶っこ会と老人クラブが合同で、温泉への移動研修も行っている。「今後は皆さんの協力をいただきながら、会もクラブも盛り上げていきたい。それも自分が健康でないとやっけないので、皆さんの見本となるようにやっていきたい」と意欲満々だ。